

ポスター1

ポスター発表(実践)

「大和プレクラス」の取り組み
—児童生徒の継続性のある学びを目指して—

村本綾・近藤菜穂子(大和市教育委員会)

<大和プレクラス開設までの経緯>

大和市の外国籍市民は6,645人(2018年11月1日現在)で、全人口の2.8%を占めており、約36人に1人が外国人住民である。中国、ベトナム、ペルーを始めとする70カ国以上の外国人住民が居住しており、国籍の多様性が特徴的である。

大和市における日本語指導が必要な児童生徒数は、356人(2018年9月1日現在)おり、例年、海外から編入する児童生徒も20名以上いる。そうした児童生徒のほとんどは、編入後日本語を初めて学ぶことになり、学習は言うに及ばず、学校生活そのものにも困難をきたしてきた。こうした状況を受け、本市では、平成30年度より、集中的に日本語初期指導を行う「大和プレクラス」を開設した。

<大和プレクラスの概要>

「大和プレクラス」は、原則20日間、1日2時間の通級で、サバイバル日本語及び日本語基礎の習得を目標としている。教育委員会の窓口で日本語のチェックを行い、日本語の初期指導が必要と判断された場合プレクラスに通級することになる。

プレクラスでの学習内容や児童生徒の様子は、毎回連絡帳に記入し学校に伝えている。さらに、児童生徒の学習の状況を伝えるべく「中間報告」と「終了報告」を行い、学校との連携を図っている。なお、プレクラスを修了した児童生徒に対して、国際教室が未設置な学校には、日本語指導巡回教員が週1回の日本語指導を行っている。プレクラスで児童生徒の様子を知る日本語指導巡回教員が、定期的に学校を訪問することで、担任やボランティア指導者との連携を図ることができるようになっている。

<課題>

しかし、児童生徒が40時間集中的に日本語初期指導を受けた後、学校の支援体制によっては、児童生徒への日本語指導が継続的に行われていない状況も生まれている。こうしたことから、プレクラス修了後、学校との引き継ぎ段階において、学校での支援体制をいかに整えていくかが重要であり、このプレクラスから学校への「つなぎ」部分が、今後の課題であると捉えている。